

令和6年7月17日（水）

皆さん、こんにちは。

明日・明後日は、生徒と保護者のみなさんのための懇談会が行われます。この機会に、生徒のみなさんには、これまでの自分の取組を振り返ってもらいたいと思います。その際、目標が達成できたかどうかという結果だけでなく、取組の途中経過にも意識を向けるようにしてください。そして、次のステップに向けた新たな目標設定と計画立案を、見通しを持って行ってもらいたいと思います。

このように、見通しを持って物事に取り組み、振り返りを次のアクションに活かすためには、何が必要でしょうか。

私は、問いの設定が不可欠ではないかと思っています。

先日、スピードスケートの元オリンピック選手である小平奈緒さんの講演を聞く機会がありました。講演を聴いた後の私の感想は、「小平さんはこれまで様々な問いに向き合ってきた方だなあ」というものでした。

そこで、今日は、小平さんからお聞きした例をいくつか紹介して、みなさんに問いについて考えててもらいたいと思います。

小平さんは、3歳からスケートを始めました。スケート経験者ではないお父さんは、「本物を見に行こう」と競技会などに奈緒さんを連れて行き、「どうしたら速く滑れるようになるか、一緒に考えよう」と言ったり、「奈緒はどう考える？」と聞いてくれたりしたそうです。

これまで、みなさんには、このような場面はどれくらいあったでしょうか。

小平さんは、結城匡啓（まさひろ）コーチのもとでスケートをしたいと考え、信州大学に進みました。そこでは、コーチからスケートのサイエンスを教わるとともに、「10年後のチャンピオンは、どんな滑りをしていると思う？」などの問いを通して、自分で考えること、すなわち自立することを促されました。

この「10年後の～？」という結城コーチの問いについて、みなさんはどのように感じますか。

オランダに2年間留学した小平さんは、チームメートとのコミュニケーションに苦労したようです。その原因は、オランダ語という言語の壁ではなく、大きく立ちのかる思考の壁だったそうです。「あなたはどうしたい？」「あなたはどうなりたい？」「あなたは滑ることで自分をどう表現したい？」「あなたはどう生きていきたい？」といったことが問われ、自分自身の中にある思考や感情を意思の宿った自分の言葉で表現することが求められたそうです。

慌ただしい日々の生活の中でも、「どうしたい？」「どうなりたい？」「どう自己表現したい？」「どう生きたい？」と考えることには何か意味があるのではないのでしょうか。

小平さんは、オランダ留学中、レース直前には、コーチから「主役は誰？」と聞かれ、自分が挑戦する舞台では常に主役は自分なのだという意識を持つようになったとも言っておられました。

みなさんにも様々なチャレンジが待っていると思いますが、その都度「主役は誰？」と自問するようになると、何か変化が起こるかもしれませんね。

小平さんは、数々のレースで優秀な成績を上げましたが、中でも人々の記憶に残っているのは、2018年平昌オリンピックで金メダルを獲得したレースでしょう。

その4年後の北京オリンピックにも出場しましたが、この時は、大会1か月前に足首の靱帯断裂という大けがを負っての出場でした。「急に襲いかかった困難にどう立ち向かうか?」「負けると分かっている試合に臨まなければならない時、どう乗り越えるか?」この問いに対して小平さんが出した答えは、「状況を受け入れる」「自分がコントロールできることに意識を注ぐ」というものでした。

北京オリンピックの終了後、小平さんは引退を表明し、同年10月の最終レースに出場しました。不斷の努力で、再び世界のトップで戦える状態まで回復させての最終戦でした。そんな彼女がレース後に抱いた感覚は、「成し遂げることはできなかったけれど、自分なりにやり遂げることはできた」だそうです。

みなさんは、「成し遂げる」と「やり遂げる」の違いは、どこにあると思いますか。

小平さんは、『成し遂げる』は一部の人しかできないけれど、『やり遂げる』はすべての人ができること』だと言っておられました。

ここまで、小平さんの講演で聴いたことを一部抜粋してお伝えしました。十分な情報を提供できたわけではありませんけれども、小平さんがメンタル、フィジカルともに優れたトップアスリートだったということは分かっていたかと思います。

みなさんは、小平さんがアスリートとして成功することができたのはどうしてだと思いますか?

小平さんについてさらにリサーチをした上でこの問いについて考えてもらおうと、みなさん自身の将来にも役に立つ答えが見つかるのではないかという気がしています。

よかったら、ぜひ考えてみてください。

ところで、私たち高志高校の教員は、みなさんに様々な問いを投げかけ、みなさんが思考を広げたり深めたりするとともに、自ら気づきや学びを得る機会を提供していきたいと考えています。

正直なところ、先生方も試行錯誤しながらというところではあるので、毎回のように Super Question は提示できないかもしれません。先生方には、みなさんと一緒に考え、ともに学んでいただければと思っていますし、生徒のみなさんには先生方のそのような姿勢を受け入れてもらえればと思っていますところ。

4月の始業式で、私はみなさんに、将来の目標（実現したいこと、叶えたい夢など）を持ってほしいとお伝えしました。それは、人と同じである必要はなく、違っていても当然だともお話ししました。人とは違う夢を持ち、人とは違う取組を行うところから、自分らしさが生まれてくるのだと思います。

みなさんには、間もなく始まる夏休みを、目標に近づくためのチャレンジの期間にしてもらいたいと思います。

それでは、みなさんが「やり遂げることができた」と言える夏休みとなることを期待して、私の話を終わります。